

1 平成30年度 高知県放送・視聴覚教育研究会夏期研修会 D-project 高知

「ICTを活用した授業づくり in 香美」

(1) 日時 平成30年7月30日(月) 13:30~16:45

(2) 場所 香美市山田小学校

(3) 内容

① SKYMENU を利用したワークショップ

基本的な SKYMENU の機能の活用方法の講習をうけた。ソフトウェアの機能は年々進化している。「マッピング」機能は、学習テーマに関連するキーワードをつなげ、思考の広がりを見える化するウェブマップ機能が開発されている。さらに、そのキーワードを「文書アシスト」機能を活用して、思考を整理しながら文章化することも可能になっている。

このように児童の考えを可視化し、整理するツールは年々進化している。それに対して、地方自治体の予算は、年々縮小もしくは、現状維持の状態になっている。この中でタブレット端末を増設したり、無線ネットワーク環境を構築したりすることも必要である。そうすると、新しいソフトウェアが開発されても導入することができにくい状況となっている。また、これらの機能を使いこなすための児童の操作スキルも必要となる。

限られた予算の中で、タブレット端末をどのように活用していくのかという具体的なビジョンをもった環境整備や機器の導入が、ますます重要になってくると考えられる。

② これからの時代を生きる子どもたちに必要な情報活用能力とは

講師 放送大学 教授 中川一史

新学習指導要領における情報教育の位置付けについて分かりやすく解説を行った。

ー講演内容概要ー

小学校の総則では、言語能力と同様に情報活用能力は児童にとって大事な力であるとされている。特に国語科の新学習指導要領解説には、これまでに比べてたくさん「情報」という言葉が使われている。国語科にも理科にも、直接「情報活用能力」という言葉は出てこないが、各教科の各項目の中に潜ませてある。そのため、系統的、教科横断的にどう繋がっているかを、教科で洗い出して整理する必要がある。

また、情報活用能力には、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の3観点で構成されている。小学校プログラミング教育の肝は、教科・領域のねらいとプログラミング的思考の重なる部分であると述べられ、全国で教科学習の論理的思考の場面の洗い出しを行っている。今後、プログラミング教育を推進していくにあたり、まず教師自らプログラミングを体験し、面白いものだと実感してアイデアを創出することが必要である。それから、教科・領域の学習活動へ埋め込んでいき、プログラミング的思考を含める資質・能力を考え、育てたい力や指導内容の見直しをしていく、カリキュラム・マネジメントが必要である。